

史跡能美古墳群崖面補強盛土工事事業

5か年加速化対策

国土強靱化

災害時の効果発揮事例

NATIONAL RESILIENCE

概要 要：石川県能美市の能美古墳群で丘陵崖面の盛土補強工事を実施。これにより、最大震度5強を観測した令和6年能登半島地震においても崖面の崩落被害は生じなかった。

対策名：97 史跡名勝天然記念物等の老朽化対策＜5か年加速化対策＞【文化庁】

■ 実施主体：石川県能美市

■ 実施場所：石川県能美市

■ 事業概要：国指定史跡能美古墳群は、古墳時代を通じて継続的に古墳が構築された、北陸地方を代表する重要な古墳群。

能美古墳群(※)のうち西山古墳群において、昭和期の開発で下部斜面が掘削され上部の古墳等が崩落する恐れがあることから、透水性がある網状補強材(ジオテキスタイル)を用いて崖面の盛土補強工事を実施した。

※能美市に点在する5つの古墳群(寺井山・和田山・末寺山・秋常山・西山)の総称

■ 事業費：約1億円

主な事業	事業費	実施期間
崖面の補強盛土工事	約1億円	R5
うち5か年加速化対策	約0.5億円	R5

■ 災害の外力、被害と効果：

➤ 令和6年能登半島地震において、能美市は震度5強の地震を観測した。本工法を採用していない和田山古墳群では崖面の崩落が認められたが、西山古墳群の施工部分では工事途中であったものの破損、崩落は生じなかった。これにより、文化財の価値が保護されるとともに、斜面崩落による二次被害を防ぐことができた。

上空写真



工事箇所

(出典：Googleマップ)

対策前



対策後



盛土内にジオテキスタイルを敷設し、そのジオテキスタイルの引張り抵抗や土と補強材の摩擦力やかみ合わせ、および盛土の圧密促進によって土の強度を高め、盛土全体を安定させた。